**資料№７**

**生ごみバイオガス発電センターの有効活用について**

１　現状と課題

　 平成25年7月に稼働を開始した生ごみバイオガス発電センターは、生ごみを処理し、メタン発酵させることで発生するバイオガスを発電に利用する施設です。現在、1日約３５ｔの生ごみを処理していますが、最大６５t処理することが可能です。また、令和２年度には約２００万ｋWhを発電し、約５００トンの二酸化炭素を削減しています。

このような状況の中、脱炭素社会の実現に向けた機運の高まりと、ごみの減量とリサイクルによる地域資源の循環を促進するため、来年度から生ごみの受入れを増やし、更なる資源化に取り組みたいと考えています。

２　生ごみの受入れ方針

現 在

促進策

今後の見通し

目 標

４５

ｔ/日

１０ｔ/日

年約200万kWhの発電

稼働率50％

３５ｔ/日

事業系(小口)生ごみ（中小の飲食店等）

家庭系生ごみ

事業系（大口）生ごみ

（スーパー・コンビニなど）

年約350万kWh

以上の発電

稼働率85％

産廃系生ごみ

（食品加工事業者等）

（一部）

下水道消化ガス

の一部を供給

３　期待される効果

・生ごみバイオガス化（再資源化）の促進

・資源の有効活用と市内循環システムの構築

・ごみの分別についての意識啓発

４　今後のスケジュール

・令和４年度に必要な条例改正を行い、事業者を公募する。

・隣接する中央浄化センターの下水道消化ガスを受け入れ発電に活用